

テトラコード (tetra chord) による移動読みマスター法

菊地康正

ソルフェージュ、聴音、移動読みに、画期的な方法をご紹介したいと思う。それは、テトラコードによるソルフェージュである。

テトラコードと言っても耳なじみのない方がほとんどだろう。テトラコードとは、4音の音階のことである。

メジャースケールとは、ドレミファソラシドが、

[全音 + 全音 + 半音 + 全音 + 全音 + 全音 + 半音]

で出来た、7音の音階であることは皆さんご存じと思うが、これを、二つに分けてみると、

楽譜 1

ドレミファ = 全音 + 全音 + 半音

ソラシド = 全音 + 全音 + 半音



となり、全く同じ構造であるので、同じ歌い方が出来ることがお解り頂けるだろう。そこで、右上の譜面のような、歌い方も可能になるわけだ。

ソラシド(F) + ソラシド(C)

ドレミファ(C) + ドレミファ(G)

カッコ内はキーを表す。つまり、1オクターブを分割し、違うキーで考えてみるということ。なぜ、わざわざそんなことをする必要があるのだろうか？そのわけは、おいおい解ってくるので、着いてきてください。

次ページ ex) 1. の解説 (A,B,C) は譜面上のリハーサル番号を表す。

A, まず Cメジャーの、ドレミファソを上がったたり降りたりして、練習する。

練習とは、歌う→吹く→歌う→吹くと繰り返し、ドレミファソという 1. 音程感覚、2. ドレミという言葉と、3. 指遣いが一致するまで練習するということである。

B, 同じ指遣いで、ソラシドレドシラと歌い、そして吹く。指が止まってしまう人は、もう一度 Aに戻る。ここで C=ソなら、ドはどこにある？という疑問が湧いてきたら、君は音楽的耳と感性を持っていると言える。調号に♭が一つ増えることに注意。Cでは、ソファ

テトラコードによる移動読み練習

Ex)1.

菊地康正サックス、フルート道場

A C G⁷ **B** F C⁷
 :C ドレミファソファミレ :F ソラシドレドシラ
C C⁷ F **D** F C⁷
 :F ソファミレド ドレミファソファミレ
E B^b F⁷ **F** F⁷ B^b
 :B^b ソラシドレドシラ ソラシド
G B^b F⁷ **H** E^b B^b⁷
 :B^b ドレミファソファミレ :E^b ソラシドレドシラ
I B^b⁷ E^b **J** E^b B^b⁷
 :E^b ソファミレド ドレミファソファミレ
K A^b E^b⁷ **L** E^b⁷ A^b
 :A^b ソラシドレドシラ ソラシド
M C G⁷ **N** G D⁷
 :C ソラシドレドシラ :G ドレミファソファミレ
O G G **P** G D⁷
 :G ドレミファソ ソラシドレドシラ

ミレドと下がって、F = ドであることが確認できた。つまりキーはFである。

FのファはB^bであるので、指を間違えないように注意。

D、Fメジャーのドレミを練習する。おわかりと思うが、必ず、歌う→吹く→歌う→吹くと繰り返し、ドレミファソという1. 音程感覚、2. ドレミという言葉と、3. 指遣いが一致するまでやると言うことである。

ここで素朴な疑問は、Fメジャーと言っても、ドレミファソの5音しか練習していないじゃないか？と気が付いた君、いい所に気が付くねえ？

DとBを良く見比べて欲しい。Dでは、Fメジャーのドレミファソを、Bでは、ソラシドレをすでに練習しているので、Fメジャーの全ての音を繋げて吹くのはたやすいことだと気が付くだろう。そう、テトラコード式とは、メジャースケールを二つに分けて練習する方法なのだ。ドレミファソをソラシドレに読み替えることによって・・・

Q D A⁷ R D
 :D ドレミファ ソファミレ ドレミファ ソ

S D A⁷ T A E⁷
 ソラシド レド シラ A: ドレミファ ソファミレ

U A V A E⁷
 A: ドレミファ ソ ソラシド レド シラ

W E B⁷ X E
 :E ドレミファ ソファミレ ドレミファ ソ

同様に、**G+E**でB♭メジャースケールが、**H+J**でE♭メジャースケールが形成されることが解るだろう。

M以降は#系のキーの練習である。

♭系では、ドレミファソを、ソラシドレに読み替えるやり方だったが、#系は逆に、ソラシドレを

ドレミファソに読み替える練習になる。

N+P = Gメジャー、**Q+S = D**メジャー、**T+V = A**メジャー・・・が成立しているのが解るだろう。